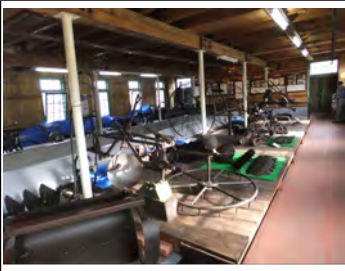


男爵記念館農機類標本台帳

一般名称: 男爵記念館の解説		現地の通称: 施設と展示の概説	
資料種別: ☐ 製品-実物 ☐ 製品-レプリカ ☐ 製品-模型 ☐ 製品図面 ☐ 写真等 ☐ 図書掲載 ☒ その他			
資料種類: ☐ 人力用具 ☐ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用 ☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類 ☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素 ☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☐ 収穫用 ☒ その他		管理プレートNo.	統一分類記号
		台帳No. D001	
		相手先番号等	
製作者・会社: 恒産組(株) 男爵記念館 = 経営(株)男爵倶楽部(函館市) 製造市・国名 民営施設 製造年,購入年,標本収集年 所在地 = 〒049-0282 北海道北斗市当別4丁目3-1			
使用目的・使用方法等	男爵資料館は、川田龍吉男爵が当別に設けた恒産社農場の記念館で、農地解放を受けた小作人達が偉業を称えて残したのが発端と伝わり、現在は恒産組(株)が経営。日本最古のロコモビル蒸気自動車、同農場で使った農機具や生活用品など約5000点が展示収蔵。レストラン龍杉創ではジャガイモ料理もたべられる。現在は全面閉館中《開館時間：午前9時～午後5時、入館料¥500、休館日：火・木曜と12～2月は休館》なるも、七飯町の清香園農場跡地に展示施設建築の予定があつて再整備中であろう。■TEL 0138-21-1177 ■FAX 0138-21-1212 ■e-mail info@danshakuimo.com 注：「恒産組(株) 男爵記念館 = 経営(株)男爵倶楽部(函館市)」の表現でよいのか？		
利用経過 収集記録 意義等	川田龍吉の父小一郎は、民間人初の第3代日銀総裁、男爵を授与された著名な人物。1877(明治10)～84年の間、龍吉は渡英し、最先端の船舶技術を学び、スコットランドのグラスゴー大学の技芸科で高等知識を習得した。帰国後に横浜橋梁(ドック)(株)の中核設計技師となり、遂に1897年41歳で社長に就任した。新発売の蒸気自動車ロコモビルを購入してわが国初のオーナードライバーでもある。父が死亡して男爵の爵位を世襲。1906年財界の大立者渋沢栄一の要請で経営危機にあった函館ドックに赴任し、専務となって再建に取組み経営を立て直す。1911年55歳の働き盛りで弟小一郎に経営をゆだねて職を辞し、清香園と恒産社農場を取得して夢に描いてきた「工農共栄」を実現に努力した。		
仕様書 解説等 右に 全体図	写真1：施設全景＝右から本館、新館、看板の左にレストラン竜杉荘 写真2 本館マンサード(キング)式畜舎の近景(平屋根部1924年築、2階建部1930年築1985年撮影) 関連写真1：本館のキング式バルーンフレーム構造：奥壁面の3角形状筒が排気ダクト。 2：木造サイロ 3：屋内展示風景 4：ロコモービル	 	
外観特色 関連図等	   		
資料の 所在	その他	資料追記 事項	
資料管理 経過			
作業メモ 追記文	北大では、1985年に調査に入ってデータベース化したが、カラー写真化と保存再確認のため、再度2014年に調査して本DBを作成した。初調査では全標本がびっしりと並べられていたが、それぞれの種類毎に数点ずつの展示となり、スッキリとした展示に変わっているが、そこで排除された標本類の所在は確認できなかった。		